

平成31年 1月18日（金曜日）

教育、民生常任委員会会議録

教育、民生常任委員会会議録

平成31年1月18日(金曜日)

出席委員(7名)

委員長 福田 淑子 君

副委員長 柳田 政喜 君

委員 村松 秀雄 君

手島 牧世 君

前原 吉宏 君

平吹 俊雄 君

藤田 洋一 君

我妻 薫 君

欠席委員(なし)

議長 大橋 昭太郎 君

町執行部出席者

教育次長兼教育総務課長 佐々木 信幸 君

教育総務課課長補佐兼管理係長兼学校給食係長 伊藤 雅典 君

教育総務課主事 阿部 圭佑 君

南郷小学校栄養教諭 上山 茂美 君

不動堂小学校栄養教諭 瀬ノ上 瑠美 君

北浦小学校栄養教諭 垣崎 友紀 君

議会事務局職員出席者

事務局次長兼議事調査係長 高橋 美樹 君

平成31年1月18日(金曜日) 午後3時00分 開会

第1 学校給食栄養価充足率の調査について

第2 調査研究テーマについて

本日の会議に付した事件

- 第 1 学校給食栄養価充足率の調査について
- 第 2 調査研究テーマについて

午後3時00分 開会

委員長（福田淑子君） 教育、民生常任委員会の会議を行います。

委員全員出席ですので、委員会は成立をいたしております。

きょうは、学校給食栄養価充足率の調査についてを議題といたします。

まず初めに、教育委員会の皆さんの御紹介をお願いいたします。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） 私からの紹介でよろしいでしょうか。

委員長（福田淑子君） はい。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） では、私のほうから紹介させていただきます。よろしくをお願いいたします。

私の隣から、南郷小学校の栄養教諭上山茂美です。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） よろしくをお願いいたします。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） 不動堂小学校の栄養教諭瀬ノ上瑠美です。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） よろしくをお願いいたします。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） その隣が北浦小学校の栄養教諭垣崎友紀です。

北浦小学校栄養教諭（垣崎友紀君） よろしくをお願いいたします。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） 後ろにおりますのが、教育総務課課長補佐兼管理係長兼学校給食係長の伊藤雅典です。

教育総務課課長補佐兼管理係長兼学校給食係長（伊藤雅典君） 伊藤です。よろしく申し上げます。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） 主事の阿部圭佑です。

教育総務課主事（阿部圭佑君） 阿部です。よろしく申し上げます。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） 私、教育総務課長の佐々木信幸でございます。よろしく申し上げます。

委員長（福田淑子君） よろしく申し上げます。

それでは、最初に委員の自己紹介をお願いします。

委員（我妻 薫君） 我妻です。よろしく申し上げます。

委員（藤田洋一君） 御苦労さまです。藤田です。どうぞよろしく申し上げます。

委員（平吹俊雄君） 平吹です。よろしく申し上げます。

委員（村松秀雄君） 村松です。よろしく申し上げます。

委員（手島牧世君） 手島です。よろしく申し上げます。

副委員長（柳田政喜君） 副委員長をさせてもらっています柳田です。よろしくお願いいたしますます。

委員長（福田淑子君） 委員長の福田です。よろしくお願いいたしますます。

それでは、「オブザーバー、議長」の声あり）済みません。議長忘れていました。

皆さんに配付しております資料の確認をお願いいたします。

まず、教育委員会のほうから29年度栄養価充足率一覧ほか、いただいております。それから、私のほうからですね、新食品成分表の本から抜粋しました栄養素と水の働きについての資料をお渡ししています。御参考にさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたしますます。

それでは、1番目に現況の把握と今後の対策についてということをお願いしておりますけれども、まず現況ですね。現況について御説明をお願いいたします。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） それでは、現況につきましては、本日お配りしました資料でございます。これが29年度分、それから直近11月分までの栄養価に関する充足率の表となっておりますので、まず表の説明からさせていただきたいと思います。

教育総務課主事（阿部圭佑君） それでは、本日お配りしました資料につきまして、私のほうから御説明させていただきます。

まず、ホチキスどめされておりますA4横の表についてですが、こちらにつきましては、29年度の4月分から各小・中学校の栄養価の充足率を小・中学校ごとにまとめたものになっております。太線枠の中身が小学校6校の平均、次の太線枠の中身が中学校3校の平均、その下が小・中学校9校の平均となっております。以下、同じ表が平成30年度11月分まで毎月ごとに作成しております。

続きまして、A3の表となります。

こちらにつきましては、今御説明させていただいた表の太線枠の中身、小学校の平均、中学校の平均、小・中学校の平均を月ごとに一覧にまとめたものになります。さらにその表の中の小学校平均というのが、毎月小学校栄養価充足率の平均を12カ月で割ったさらに平均となっております。以下、中学校平均、全体の平均となっております。単位につきましては、全て充足率ですので、パーセントとさせていただきます。

以上です。

委員長（福田淑子君） 中身をお聞きしたいんです。この中身の説明というのはしていただけないんですか。表は見ればわかる。お聞きしたいのは、標準に対して100%を超えている、それから100%に満たない70%ぐらいもありますよね。ビタミンB1とか、それからレチノールは、中

学校ですか。そういった状況にあるので、この中身についてを、どうしてこういう状況になるのかということでお聞きしたいですね。説明することはないんですか。こちらから質問されたほうがいいですか。(「そのほうがいいかもしれない」の声あり)

では、委員から質問形式にしたいと思います。何かありませんか。我妻委員。

委員(我妻 薫君) 単位でパーセントで出たんですが、100%基準というふうに見ればよろしいのか。100%を基準にその単位で、さっき出たように、そうすると70%だと随分少ないよというふうに判断していいんですか。

あともう一つ、特徴的にどうなんですか。小学校、中学校で対比すると、レチノールとかビタミンA、平均的なんですか。小学生のほうは多めになって、中学生のほうは低めでもいいという。成長過程なのかどうか。その辺の変化について。全体的に中学校が少ないのね。小学校は100%、すると中学校になったら余り必要がないから下げているということ。

南郷小学校栄養教諭(上山茂美君) 小学校と中学校それぞれで栄養価のほうは文科省のほうから出されているんですけども、中学校のほう、根拠はない、どちらも100%の基準に合わせるのが基本と。

委員(我妻 薫君) 現実的にはこういうふうにきれいに分かれているんだから、小学校は100%、115、120となっている。中学校になると全部70、75、これは減ったことになっているということですか。(「基準値が違う」の声あり)文科省で示した基準値(「が小学校と中学校とそれぞれ違う」の声あり)違う、ああ。(「小学校、中学校に合わせた基準、小学校は小学校に合わせた基準でこれに合わせて近づけるような努力をしてきた」の声あり)

文科省で示している基準というのとはわからないんですか。(「わかります」の声あり)比較する意味でもあったほうが良いと思う。

委員長(福田淑子君) では、休憩します。

午後3時09分 休憩

午後3時14分 再開

委員長(福田淑子君) 再開いたします。

平吹委員。

委員(平吹俊雄君) このA4のこれの中で、カルシウムは全体的に100%、それからT2とB1、それからビタミンB2、繊維も全部以下なんですが、特にいわゆる小学校8月に鉄分104、それから中学校8月ビタミンB1、それから中学校12月ですね、ビタミンB2それぞれ100以上

になっているんですけれども、それ以外は全部100以下なのね。このとき、こういう数字が出たということは、食べ物の関係だと思うんですけれども、その数字はどういうことでこのところだけが改善になったのか、この辺。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 8月につきましては、夏休みがございますので、実質給食がある日は5日程度ですので、100%を超える場合も出てきまして、ほかの月に関しては20日程度ございますので、月平均にならしてしまうととれる食材ととれない食材があります。

委員（平吹俊雄君） 要はあれなんですか。食数が少ないからこの数字が出たという形の認識でいいんですか。給食数が少ないから、ではないんですか。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） そのときの中身までちょっと見てみないとわからないんですけれども。

委員（平吹俊雄君） 簡単に言えば、いわゆる100やったときの食品がどういうふうになって、ということから100に対して恐らく100を目標にやっていると思うのですが、そういうのも出てくるのかなと思った。そう簡単なものではないんですか。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） 8月にばらつきが出やすいのは今言ったように、日数が少ないので、食数、5食しかないと例えばないとした場合に、そのうちの1食でたまたま何か鉄分の多い食材が使われたとすると、平均にしてもその抜けた1食分が影響して高く出ることもあるということだと思えますね。ただ、実際20食以上ある月に関しては、全体でならされてしまうので、例えば1回、2回鉄分の多い食材を使ったとしても全体の中ではやはりならされて、平均的になってしまうということでの8月が多い数字が出やすいというのはそういうことがあると思います。

委員（平吹俊雄君） 12月もそうだね。12月も。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） ほかの月に比べれば少ないです。

委員（平吹俊雄君） そういう形の中で、やはり100を目標にしていると思うんですが、その中で、いわゆるカルシウムと食物繊維というのはもう100を超えているわけですから、こういうような今後、これの改善策というか検討されているのか。1年間通して。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） 目標とすれば、やはり100に近づけるといのは当然目標としてあって、献立を考えるということになりますが、ただ、例えば今まで聞いた話からするとですけれども、例えば鉄分がメニューで少ないからといって別なものをふやすとか、そういう部分的にふやすということはなかなか難しいようなんですね。要するにメニューの問題がありますので、全体的な献立の中でのバランス、もちろん子供たちがおいしく食べてもら

うように工夫してつくらなければならないので、そこでピンポイントで何かをふやすというのは非常に難しいという話は聞いております。ただ、先ほど平吹委員がおっしゃったように、目標値としては充足率の100というのがございますので、なるべくそれに近づけるように工夫をして献立をつくと、さらに子供たちがなるべく残さないで食べられるようにメニューも工夫しながら毎回同じものでは飽きられますので、そういったところも工夫しながら献立を考えていただいているというふうに考えております。

委員長（福田淑子君） 我妻委員。

委員（我妻 薫君） さっきの質問したやつ、これ見たら、中学校だけがやっぱり300という数値になっているんだよね、この基準から見たら全体的に低いというのは理解しました。ところが今度、小学校のほう3段階に分かれています。ところがここで出ているのは、一律で全部%にしている。小学校の場合290からビタミンAの270、260、3段階に分かれているの、ここで出たのは1年から6年生まで全部平均の数字だよ。これね。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 学校給食で基準にしている値は、8歳から9歳の場合の数字になります。

委員（我妻 薫君） この基準になるのは、8歳から9歳、真ん中だね。そうすると、なおさらこのビタミンAでいうと200と300の違い、そうすると中学校の300に合わせると、これを100にすると、どうしても今、町の場合は低めの70台になっているというのが現状、そういう見方でいいんですか。

委員（平吹俊雄君） もう一つ。

委員長（福田淑子君） 平吹委員。

委員（平吹俊雄君） 食塩相当量なんですけど、私もしょっぱいほうが、食べた気しないのでね、結構100以上になっているんですけども健康としては、やはり薄いより濃いめというか、そのほうがやはり食いつぶりがいいというか、訂正いたします。旺盛のほうになるんですかね。その辺は研究したことはありますか。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） 子供たちの食べている状況を見てみると、少し塩分量も摂取量も低いので、給食も低くするように心がけているんですけども、その日の食材とかによって少し、あと気候とかによっても塩分量が高くなってしまいうかが献立であったりすると、意外とそのときは残食が少なかったりとかする傾向にはありますが、でも平均的にこの塩分量で食べさせていても残食はさほど多くはないとは感じています。

委員（平吹俊雄君） 体、要するに今、塩分少なくという傾向ことに結構なっていますけれど

も、そういう体調面に関してはどの程度充足率から範囲内ということになりますか。範囲内と
いうか。

南郷小学校栄養教諭(上山茂美君) 基準はさらに低くなったんです。8月に変更になったん
ですけれども、さらに塩分量の基準が厳しくなっているのが現状です。

委員長(福田淑子君) 委員の皆さん、自分の好みでお話しないで、子供のあくまでもこの基
準に沿って、よろしく願います。手島委員。

委員(手島牧世君) 何点かあるんですけれども、まずは充足率100%に近づけるとい
うところなんですが、大体何%から何%、私は勝手に今70%以下で見ていたんですけれども、どれぐ
らいまでも可として考えられているのか、まずお聞きします。(「基準値」の声あり)近づける
という、はいわかりました。

では、これ今学校ごとに知りたいと思ったのは、ならしてしまうと70%にしているのが2カ
所程度なんですね。見ているとちょっと気になるのが、不動堂中学校さんが特にビタミンCで
すか、あとは小牛田中学校は次いで、あとはビタミンB1に関しては不動堂中学校と青生小学
校と北浦小学校も何か70%を切っているような、すごく多いなというのが見えて、ただ栄養価
とれないというのが例えば材料とかそういったものが、きちんとう、要は給食費を値上げし
ないと対応できませんだなんていうこともある中で、そんな一律ではなくて、例えば、どこで
もいいですけれども、30年5月だったらビタミンCを追いかけていくと、小牛田小では54.3、
南郷中学校が111.4という形で結構南郷中学校さんのビタミンC、全体高いんですね。ひどいと
40%台ですね。29年2月だと45.7という形になっているので、すごく格差があるので、一律に
それが材料とか、食数とかには反映されていないんじゃないかなというところがお伺いしたい
と思います。

南郷小学校栄養教諭(上山茂美君) ビタミンCが一番とりやすいのは果物なんですけれども、
今の給食費を考えますと、果物1品つけるのが難しくて、月ごとに見ていて、若干使い過ぎて
しまった月があって、これを安くできればですけれども、何ていったらいいんでしょうね、果
物をつけるのが難しいような状態の月も出てきていたのかなというのを何となく思うのですけ
れど。

委員(手島牧世君) 片方の小学校では一番最後11月分でいくと、不動堂中学校40%で南郷中
学校が110%という、そのすごく差が出ているので、ほかのところもそうなんですけれども、成
分的にこの差で顕著にあらわれているので。全部ならしてしまうと60、最低でも61.9ぐらいに
おさまっているようなんですけれども、ただ高いところもあるから下をカバーしていると思うんで

す。学校別にかなり低いんじゃないのかなと思ったので。その辺がだから、例えば給食費上げないとメニューづくりできないんですよというなら全体下がっているならわかるんですが、この辺がちょっと知りたい。

ちょっとそれに関連して、要は学校ごとでいろいろ工夫とか、メニューとか、献立というのがあったんですけども、それお互いに改善するようなお話し合いとか、こういった栄養的に、例えば南郷中学校はビタミンC上がっているのはこういった理由があるんだとか、そういったお話される場とかはあるんですか

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） 毎月栄養士会、町内の栄養士会を開いておりまして、研修の場は設けているんですけども、これまでの研修の動きを考えると、栄養価に特化した研修はこれまで余りしていなかったのが現状なので、今後ちょっと足りない栄養素をとれるような献立の研究だったりとか、こういった充足率の表を見合うということもこれまでしてこなかったもので、こういった情報を共有することから始めていけたらなと今回思いました。

委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。我妻委員。

委員（我妻 薫君） 今言われたようにね、今こうやって初めて栄養士さんたちにね。おととい、角田市だけ。（「角田」の声あり）栄養価上げるために給食費を値上げしたり。だから、ただその食材をふやせばいいということだけの問題なのか、それともやっぱり今こうしても子供たちの体に合わせた、そういった栄養バランスのいい食事ができるのかどうか、そういったところにも一つ勉強会みたいな、そういうのも何か専門家の中でやってもらう中で、やっぱり材料も足りないと、そういうのが出てくれば給食費の問題とも関連すると思うけれども、その辺ちょっと我々その前にこうやって聞いているんだけど、なかなか中身がわかりませんよね。今言われたように、栄養価についての話し合いはまだやられていないということなんです。それでちょっとやってみるしか動けないのかな、現場は。そんな計画は。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） このような栄養価を分けないで考える話題にはなっているので、今後栄養士会として研修の場を設けて、今のような研修も開催したいと思っていますし、あとは県内で開催される研修会とかもあるので、そういったものに積極的に参加して、町内の栄養士で情報共有していけたらなと、頑張っていきたいと思います。

委員長（福田淑子君） ほかに。我妻委員。

委員（我妻 薫君） さっき手島さんが言ったけれども、ビタミンC見たら、給食センターの南郷とか、全体的に高いんですよ。ビタミンCとかね、エネルギーとか見ると結構その後は炭水化物、それ多いね。その辺の、南郷はどちらも給食センター、南郷であっても小学校と中

学校は分けているんでしょう。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） メニューは同じで量。

委員（我妻 薫君） 量でね、そうすると、さっきのレチノールのやつにもつながるんですよ。小学校では足りない、中学校では基準が下がる、同じようにつくっている、皆さんの小学校でつくっている作業が出てくるような気がするので、今見ている感じだとね。その辺つき合わせはまだやっていない。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） 今まで各中学校か小学校がどのような栄養価でやってきたかは実際には把握しておりません。

委員（我妻 薫君） していないね。給食センターは一緒だもんね。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） そうですね。

委員（我妻 薫君） 量だけ。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） はい、量で違います。

委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。柳田委員。

副委員長（柳田政喜君） こういう栄養価を考えると、やっぱり季節だったり、さっきしょっぱいの話もありましたけれども、塩分に関しては東北ということで、どうしても濃い、家庭でも同様だと思うんですけれども、味つけでもやっぱり東北ですから濃いめになって、全国平均の数字に比べると高くなる傾向なのかなと思ったんですよ。

一つ気になったのは、地場産品結構使われて、うちの町は地場産品の使用率が高いということですが、その辺使うほうが逆に栄養価とるのが難しくなるとか、そういう、やっぱり食材、地場産品、今の時期であったらこの地域だったらこの野菜とこの野菜ですよとか、決まっているじゃないですか。当然この地域だと。そういうのをやっぱり利用しようとする、この季節はどうしてもこの栄養価が足りなくなるとか、少ないとか。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） 地場産品の使用の有無でというのは、それは余り関係ないように思います。地場産品を使うときには使える野菜を使用はするんですけれども、使用できないからといって、その野菜を使わないわけではなくて、ほかの業者さんからその分補充して提供していることには変わりないので、その辺は余り関係ない。

副委員長（柳田政喜君） では、こっちのほうはどちらかというと寒いということで、地場産品には季節の野菜とかありますよね。季節によっても多分とれるもの、とれないもの、果物だってやっぱり高くなって使えないとか、安くなると使いやすいから使えるとかあると思うんですね。その辺は大分苦労すると思いますけれども、その辺ずばりどういうふうにしたら、例え

ば私たちはどういうふうにしたらいいのかなというのを、どういうふうにしてもらえたら私たちはもっと調整しやすいというのがありますか。地場産品だけではなくて、食材とか、栄養価を計画する上で、さっきから話しているような基準点をもう少し上げてほしいとか。具体的に。南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） 給食はおかずのほかに御飯、パン、牛乳で成り立っているんですけども、今の現状をお話すると、牛乳、パン、御飯は年々値上がりをしていて、それはもう必ずとられるものというか、それを引いた部分でおかずを提供しなければならないので。（「最初に引き算してからおかずを考える」の声あり）はい。なので、だんだんとしわ寄せが来ているのが事実です。さらに食材の高騰を考えると、裕福な状況ではないのは、そんな状況です。

副委員長（柳田政喜君） 基本的にはこういう今伺っている状況の中で、先にもう金額の上限が決まっていて、その中でやっているというのが厳しくなっているという現状ですよ。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） そうですね。

あと、先ほどいった御飯の中身に関しても、美里町は全部委託炊飯なので、業者に全部頼んでいる状況なので、その部分だけでも。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 自分の学校で直接炊飯するよりも委託の手数料として30円から40円ほど食材料費もかかり、払っているの。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） その委託費も値上がりをしている状態なので。

副委員長（柳田政喜君） 委託費も食材費に入っているんですよ。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 1食単価の中に入っている。

副委員長（柳田政喜君） それを例えば別にすればその分余裕が出てくるんですよ。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） 自分のところで炊飯施設があるところは、これはとられずにお米代だけで済むんですけども。

副委員長（柳田政喜君） そういう問題があるんですよ。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） なので、なかなか1食の給食をつくるに当たって、もう一品というのがつけにくい状況があるのかもしれませんが。各校それぞれ状況が違うので。

副委員長（柳田政喜君） こういうふうにデータ出せるということは、ふだんからきちっと管理しているということで、足りないものとかみんな工夫はなさっているんでしょうからね。その中でプラス1品に関してが予算の範囲でできないという。今、聞いてびっくりしたのがそうですからね、委託することによって、御飯炊いてもらうという、そういうのが先にそっちに入っちゃうんだから。それはやっぱり私たちも知らないことで。食材費に加工賃が入ってね。

わかりました。

委員長（福田淑子君） 手島委員。

委員（手島牧世君） なかなか今、お話聞いていて今、牛乳の話が出たので、牛乳に関してアレルギーの確認が今賛否がすごく言われていると思うんですけども、その辺の給食として出す牛乳としては方向性とか、考えとか、かなりアレルギー、牛乳だけではないんですけども、かなり多くなってきているみたいなので、その辺どうなんでしょうか。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 美里町ではアレルギーの対応に、統一したアレルギーのマニュアルで確認して、その中に牛乳、低脂肪も含めて確認して、それぞれに対応しております。あとは、学校給食法の中に、完全給食とは主食、ミルク、おかずが入ったものをいうということになっておりまして、そこからミルクを外してしまうのは。

委員（手島牧世君） アレルギーのある子は何が代替に出るんですか。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 牛乳代を返金しまして、牛乳のかわりに水筒の水やお茶を持参している現状です。アレルギー疾患を対応している場合。

委員（手島牧世君） はい、わかりました。もう一つ。

委員長（福田淑子君） 手島委員。

委員（手島牧世君） 栄養価充足率というのは、いつぐらいからこのデータを管理しているのか。データでさかのぼってどこまでわかるものですか。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） 情報の保管というのは南郷は5年保管しているということですけども、データとしてはどのぐらいか。システムが入ったのが記憶がないんですけども、その年の分からはわかると思うんですが。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 28年からは確認はしているんですよ。新しい制度になりまして。

委員（手島牧世君） そこからしかわからない。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） そう、28年。

委員長（福田淑子君） 28年から。それはデータベース化して、それはもちろんですよ。以前、伊藤さんから話を聞いたときに、この表をいただいたときにデータベース化する前も教育委員会には上がってきたことがあるという話はちょっと聞いたんです。

教育総務課課長補佐兼管理係長兼学校給食係長（伊藤雅典君） 献立表ですかね、献立表は毎月、献立は上がってきているのでそれには多分。（「データは」の声あり）データとして残すのは多分バージョンアップすると消えちゃうので、残すとしたら毎月毎日紙ベースで出して保管

していれば。今までそういう、今回のようなデータベースから打ち出した紙は教育委員会で徴収していなかったので、今回栄養価のこれがあったときに29年度分から集計していただいて、そのときから教育委員会で、それから毎月もらってということで提出していただいている状況です。それまでは正直言って学校さんにお任せしていて、献立を一応毎月もらってという状況しか確認していません。

委員長（福田淑子君） よろしいですか。ほかにありませんか。議長。

議長（福田淑子君） 議長。

議長（大橋昭太郎君） こういう問題が庁内から出てきたように思うんですけども、特別にこういったような問題についての県なりの指導なり、通達なりというのはありますか。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 給食施設ですと、栄養管理については保健所の指導が毎年立ち入り検査で受けまして、その際、1年間分ないし2年間分の食品の提出を求められ、全てチェックを受けております。その後の指導内容につきましては、教育委員会に報告しているところで、今まで特段栄養価についての指導はございません。（「ないという」の声あり）

議長（大橋昭太郎君） すると、県のほうでは余り問題視していないという捉え方でよろしいんでしょうか。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） 去年の11月末だと思うんですけども、報道が出たのがですね。その後に県から6月分の栄養価のデータを提出してくださいということで、うちのほうからは全部学校ごとに整理した、こういった栄養価に関するデータは県のほうに提出しています。ただ、その結果というのは、何も来ていないんですね。県内一円の多分市町村に提出を求めているとは思いますが、じゃあその結果を教えてくださいということでお話ししたんですが、公表はできないということで、わからないんです、私たちも、出しっぱなしで。だから、県のほうでも一応問題視はして、調査はしているけれどもその結果としては私たちは何も知らされていないというのが今の状況です。

委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。藤田委員。

委員（藤田洋一君） ちょっと確認になるかもしれませんが、アレルギー、先ほど出たけれども、アレルギーの方の子供たちが何人ぐらいいて、今一番困っていること、全体で何人ぐらい栄養士さんたち対応されているのか、その辺は。

教育総務課課長補佐兼管理係長兼学校給食係長（伊藤雅典君） 一番人数が多くて一番大変なのは不動堂小学校で、アレルギー対応の専属の調理員さんをつけて別に取り扱うようにつけているのが1名います。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） 調理の工程なども分けないといけないので（「別なの」の声あり）そのために別メニューでつくる人が1名だということでもあります。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 470食つくっているうち、途中からの変更もございませぬが、17名。

委員（藤田洋一君） ちなみにどんな食材なんですか。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 乳、卵、魚、豚肉、ピーナッツ、ナッツ類、キウイフルーツ、トマト、オレンジ。

委員（藤田洋一君） 全然だめだという、対応にならない子供は自分のうちから持ってくるというとか、そういうのはだめなんですか。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 1名大豆のお子さんは、大豆というのは調味料塩以外ほとんどソースでもコンソメでも入っていますので、大豆のお子さんだけはお弁当持参をしています。

副委員長（柳田政喜君） 南郷と北浦で何名ずつ、アレルギー食。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） 南郷は幼稚園、小学校、中学校520食ぐらいなんですけれども、7名。

副委員長（柳田政喜君） 7名。済みません。不動堂さん分母は何ぼでしたっけ。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 470。

副委員長（柳田政喜君） 470。北浦さんは。

北浦小学校栄養教諭（垣崎友紀君） 本校は3名アレルギーのお子さんがいるうち、学校の給食として対応しているお子さんは1名です。卵と乳とバナナのアレルギーのお子さんに対してアレルギーを対応していて、そのほか2名のお子さんに関してはピーナッツ、あとクルミとかの種実類、ナッツ類のお子さんが2名いらっしゃって、そういったお子さんでなおかつナッツ類だとアレルギーの症状が出たときに重篤になりやすいという側面もありますので、本校では最初からナッツ類を入れない給食をつくって対応しておりました。

副委員長（柳田政喜君） 一般の方と同じものを。

北浦小学校栄養教諭（垣崎友紀君） 一般の方と同じものを2名のお子さんも食べているという状況です。

本校はあと北浦小学校のほかに中埴小学校の分の給食もつくっておりまして、中埴小学校も本校と同じようにナッツ類がだめなお子さんがいらっしゃって、同じ給食をみんなで食べられるように中埴小学校のほうにも提供しています。

副委員長（柳田政喜君） では、アレルギー食は北浦に合わせて。

北浦小学校栄養教諭（垣崎友紀君） 1名です。つくっているのは。

副委員長（柳田政喜君） 全部合わせると何名ぐらい。

北浦小学校栄養教諭（垣崎友紀君） 約3名ほどになります。

副委員長（柳田政喜君） 3名、300分の1ですね。

北浦小学校栄養教諭（垣崎友紀君） そうですね。

副委員長（柳田政喜君） でも、ちなみにナッツ類って結構栄養価高いので。使えないのは結構大変ですよ。

北浦小学校栄養教諭（垣崎友紀君） そうですね。大変ですね。種実類の部分がなかなか充足とれていない状況なので、その分に関してはほかの食材で補えるように努めております。

委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。手島委員。

委員（手島牧世君） アレルギーの話があったので、アナフィラキシーショックの対応とか、そちらのほうに関しては十分な対応ができる体制になっているのでしょうか。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） 南郷ではアナフィラキシーショックのような症状が出るお子さんは現在いないんですけども、病院のほうから勉強会をしてとかよこされているお子さんもいるようなので、そういった学校に対しては職員間での使い方の研修を行ったりとか、あとは保護者との連絡体制を整える共通理解を持ったりとかのような対応は。

委員（手島牧世君） 町全体としては研修とか、そういったものは行われているのでしょうか。

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 県で各地区ごとに研修を行っていて、そこに大体の先生、養護教諭が出て伝達するというところもあるし、あとは本校でもアナフィラキシーの既往歴あるお子さんがおりますので、毎年4月学校スタート前に新しい体制になりましたら、研修を全員で受けております。

委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。

この表を見た限りでも栄養量が達していないのが、ばらつきがあるんですけども、やっぱりこれ今後不足を早急に私はやっぱり改善すべきだと思うんですね。それで、今後の対策なんですけれども、もしよろしかったら、先ほどいろいろお話はされているんですけども、改めてお伺いしたいと思います。今後の対策、当然改善しなければならないと思います。その辺。

南郷小学校栄養教諭（上山茂美君） 先ほども出たように、学校の栄養価の現状を現栄養士でまず共有するのが先決かなと思いました。充足しにくい栄養素が顕著にあらわれてはいるので、それについてやはり各栄養士、勉強会、研修会などの積極的に参加しながら、また物価の上昇

などの現状もありますので、いろいろ食材を工夫して取り入れながら改善を図っていきたくて考えています。

委員長（福田淑子君） それと同時に教育委員会が事務局としてこの栄養価についてのやっぱりチェック体制というのがきちんとしていて、援助できる部分は援助する、それから一緒になって解決できる部分は一緒に解決する、常に把握する義務があると思うんですけども、その辺、教育委員会事務局としての改善というのはどのようにお考えですか。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） 先ほど申し上げたとおり、栄養士会というのを毎月定例で行われておりまして、そこには担当職員が毎回参加して、私も出られるときは出ますし、必ず事務局職員が入るようにしています。その中で、先ほどもお話出ましたけれども、この問題が出るまでは栄養価の充足率について特段お話し合いをそれに特化したものはしてこなかったということなんですけど、現実にはこれが今県内でも問題視されており、こうして調査した結果、やはり100%に達していない栄養価も実際にはあるということがわかりましたので、今は毎月この栄養価、システムで献立をつくと出るようになっていきますので、それを毎月報告はしていただくということをお願いはしております。ですので、その毎月の報告いただいた結果を栄養士会に戻して、そこで、多分この表だけではわからないと思うので、プラス献立表ですよ。前月の栄養価はこういうふうに出ましたよと、学校によっては充足しているもの、していないものがある、それは献立表を見て、何が足りなかったのか、食材に何をプラスすれば献立のバランスとれるのかというような話し合いをこれからはしていきたいというふうに思います。そのために事務局としてはこういう資料整理をしたりとか、栄養士会の支援に当たりたいというふうに思っております。

あとは、例えばですが、金額の問題ですね。この話も出るかと思うんですけども、先ほども1つお話出ましたけれども、お米とかパンはやはり値上がりしているんですね。そういったところで、ほかのおかずの部分が圧縮されてしまうということもあるかとは思いますが、じゃあ、その分給食費を上げたらいいのかというふうな話になれば、またそれはそれできちんと検討しなければならないというのもあります。ですので、その辺はすごく慎重に検討していかないといけないかなと思っています。今のところ食材も工夫ですか、献立の工夫を、ある学校では充足しているけれども、この学校ではとれていないという、その原因はどこにあるのかというのを多分今まではほかの学校の栄養価とか、献立というのはそれほど余りにされていなかったと思うんですけども、その辺お互いに情報共有していただいて、検証していただくということをお願いしたいなと思います。

委員長（福田淑子君） ありがとうございます。

議員の皆さんから要望ありましたら、柳田委員。

副委員長（柳田政喜君） 先ほどお聞きした御飯の炊飯料ですか、そちらに関しては、食材費じゃないと思うんです。その部分はやはり早急に検討してもらって、そういう業務委託の部分でかかっている炊飯料に関しては、食材費から抜くような形にしてほしいと要望しておきます。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） その考え方はちょっと難しい面があるけれども、例えば加工品として食材を購入する場合、ありますよね、生の食材とか果物ではなくて、果物を加工したピューレだったり、そういったものを購入する場合、それはそのものが食材として捉えられるので加工品でも食材として見ております。米の場合も生の米を購入する場合と今みたいに炊飯された御飯を購入する、これも加工されたものとして購入していますので、考え方としては食材と認めてもおかしくはないと思います。ただ、さっき言ったとおり、これをもし委託ではなくて自校で炊飯をするという場合に安くなるかもしれませんけれども、当然その場合はそのための機材も必要ですし、燃料費もかかりますし、それから人手も必要になります。そういったところも考えていかないないと単純に自校で炊飯をすれば全体的に安く上がるかという、そうではないのかなと、食材費という面だけで見れば、そこは下がるかもしれませんけれども。

副委員長（柳田政喜君） 私が言っているのは、そういう食材費と見る見ないというのは難しいと思いますよ。ただ、それは町の都合で加工するときには人件費、機材費、資材費がかかりますよと、だから今委託しているのであって、子供たちに与える食材の中に入るものではないと思います。当然加工されているものを、一般的に加工されたものを、流通しているものを買うのとは違うんですから。だからお米で買ってできるものを町の都合で加工をお願いして、御飯にしてもらってきているんでしょう、だって。委託の事業として別に加工賃が入っているわけですから。それぐらい除くのは別に問題ないと思いますけれども。それはうちの施設の問題ですから。

教育次長兼教育総務課長（佐々木信幸君） 検討します。（「すぐには答えられないだろう」の声あり）

副委員長（柳田政喜君） お弁当を給食やめて全部業者さんにお弁当をお願いしますというときに、お弁当代金全部というようなふうになったらどんと上がったじゃないですか。でもその食材代金幾らですか。食材代金だけは給食費として、加工賃は町が持ちますとなるのは、恐

らく弁当になったときはそうなると思うんですね。そうなる、御飯炊く部分というのは、町の都合ですから、その30円ぐらいかかるというのは、それは当然検討すべき案件なんですねという話です。難しい話ではなくて、意見としてこういう部分あるんだったら、圧縮しているのだったら値上げするか、町の都合です。

委員（手島牧世君） 中学校の役員とお会いしたときに結構出た話なんですけれども、特に中学生の男の子たちが食べ応えの話があって、カロリーとか、もちろんいっぱい工夫してもらっているのはわかるんですけれども、やっぱり同じ食材でも同じカロリーの食べ物と食べたいという量があるというところでの1品ふやしてほしいとか、本当に給食多くしてほしいとかというのは声が出ていたのがあって、ただ、それにはやっぱりちょっとまたお金がかかってくるんですけれども、ただ単に、これビタミンとか追いかけていくとどうしても圧縮されて、これでカロリーでも何でもとられますよというふうになってしまうと食べ応え今度なくなるかなというところで、その辺だけ減らさないようにお願いします。（「未来の給食は錠剤1つですからね」の声あり）

不動堂小学校栄養教諭（瀬ノ上瑠美君） 学校給食の基準として、1つ栄養価の基準もあるんですが、食品の構成の基準というのをございまして、例えば、米ですと中学生だと100グラムとらなければいけない、芋ですと9グラム月平均でとらなければいけない、キノコだと40グラムとらなければいけないという食品何グラムという基準もございまして、そちらもあわせて検討して見ていくようにしています。

委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。平吹委員。

委員（平吹俊雄君） ちなみに29年度の方ですが、米の量ですか、幾らなんですか。御飯。全体、1年間。1年間の消費量。（「生米ですか」の声あり）米、米（「だって炊飯頼んでいるから」「わからないそうです」の声あり）さっきほら、要するに御飯ね、高くなっているということだから、その辺研究してさ、我々稲作地帯だからね、だからその辺はもう少し考えてね。生徒と一緒にってとかさ、例えばの話ですけれども、そのようなことで工夫しながら、あと、ある程度町でそれなら経費使うかということになるので、その辺の考え方を、御飯を安く仕入れてというかね、安くするという、やっぱりそういうのも一つの考え方としてね、ただ物を買って安くするのではなくて、手をかけてやって食べるんだよということ。食文化というか、そういう考え方ももまずね、いいのかなと思ったものだから今ちょっと米の消費量幾らかなと思って。端的に去年小学校の学習でですか、やっぱり7俵か8俵ぐらいとれますからね。例えばね、例えばの話だけれども。（「つくらせるということ」の声あり）そういう形の中でね、子供たち

にね、そういう文化というか、あるいは地産地消とか、そういう形の中で考えてもいいのかなと思った。その辺はひとつ研究してください。

委員長（福田淑子君） ほかにありませんか。（「なし」の声あり）

ないようですので、以上で学校給食栄養価充足率の調査についてを終わりたいと思います。教育委員会の皆さん大変ありがとうございました。

4時15分まで休憩します。

午後4時07分 休憩

午後4時15分 再開

委員長（福田淑子君） 再開いたします。

全員出席ですので、委員会は成立いたしております。

ただいま教育委員会の事務局、それから栄養士の方においでいただいて、栄養価の充足率についていろいろと意見を交換させていただきました。それを委員会としてどのようにしていけばいいのかなということなんですけれども、皆さんで話し合っ決めていきたいと思います。

明らかに気づいたのは、栄養価については余り意識はしていなかったんだというのがわかりました。初めて平成28年度からしているのにもかかわらず、そのデータをどのようにするかと、それから栄養士さん同士のお話し合いの中でもそういうものが話し合わなかったということが明らかになったのではないかなと思います。

委員会として、今後の改革、いろいろ聞きましたけれども、どのようにしたらいいのか、御意見を伺いたいと思います。

休憩します。

午後4時16分 休憩

午後4時20分 再開

委員長（福田淑子君） 再開いたします。

きょうの学校給食栄養価充足率の調査については、報告書を提出するというで次回にその提案を示させていただきます。

平成31年度の調査研究テーマについては、次回まで皆さん考えていただければなと思います。ちなみに30年度は子育て支援だったので、今度は別な分野にしたほうがいいのか、それともほかのものでなく、引き続き何かあればということで、両方あわせて皆さんから研究テーマを案

として出させていただきますので、必ず考えてきてください。

では、次回の日にちにをいつにするか決めたいと思います。

休憩いたします。

午後4時21分 休憩

午後4時25分 再開

委員長（福田淑子君） 再開いたします。

次回、2月15日2時から会議を開きますので、皆さんの御参加をお願いいたします。

その他、何かありませんか。議長。

議長（大橋昭太郎君） 25日の議員講座の関係、案内をしておいてもらうとよろしいかと思
います。

委員長（福田淑子君） 後からしますね。

では、委員会の会議はこれで終わりにしたいと思います。副委員長、挨拶をお願いします。

副委員長（柳田政喜君） 本日は午前中から長々とありがとうございました。皆さん、お疲れ
さまでした。

天気は悪いですが、5時半から新年会のほうを開催しますので、足元に気をつけて御
参加ください。よろしくをお願いします。

本日はお疲れさまでした。

午後4時26分 閉会

平成 年 月 日

教育、民生常任委員会

委員長